

廣讚寺

ジャーナル

第83号

(発行所)

真宗大谷派

松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30

TEL (052) 411-5301

FAX (052) 411-5341

携帯 090-1568-4623

(E-mail)

matsuoka@kosanji.or.jp

人は死ぬとどこにいくのか

へいぜい
平生ほとんどの人は「人間死んだらおしまい。すべて無になる」と考えているのではないだろうか。自身、死んだらおしまい、で極楽に行くとか地獄におちるなんて考えられないと。もちろん自分が幽霊になるとも考えないでしょう。

ところが自分に近い間柄の人を亡くした時にそんな簡単に片づけられるであろうか。大切なあの人は死んで無になつたと。親しければ親しいほど、あの人は亡くなつてどこにいったのだろうかを考える。私がいずれ行く世界に先に行つたと考えてみてはどうだろう。そうすれば、自分自身、死んだらおしまいとはならないでしょう。



人間関係

人生、いろいろな縁で他人と関わることになる。生きていく上で人間関係を持つことは避けては通れない。

まず、生まれた瞬間に親子の関係ができる。そして親戚関係、近所関係、学校に行くようになれば友人関係も築いていくことになる。そして仕事をするようになれば職場での人間関係、取引先との人間関係など気を遣いそうな人間関係も築いていかなければ生活に難をきたす。

人間関係は築かれていくと同様に、薄れ切れていく場合もある。どんなに強く結ばれ良好な人間関係も一つ歯車がくるえば解消され、今度は憎しみ合うという関係を持たなければならぬこともある。

よく、人間関係は信用が大切だ、といわれるが、この「信用」ほど、あてにならないものはない。

まだ中学生だった頃、先生が教壇でこんなことを言

っていたことを思い出す。

「あなたのことを信用していますから」と言われたとき、あなたはそこから信用されていません。「信用している」という言葉で誓約書を書かされたようなものです。

と、先生から言われ、なるほどその通りだと思った。

人間関係は難しいと言う人は多い。確かに難しい。仲良しだといえども、お互いに気を遣い、顔色もうかがい、知らぬうちに駆け引きだっしてしている。お互いに頑張っつながっていようとしていいるから、つながっている人間関係。いくら波長が合うと思っっている相手でもちよつとしたきっかけや、環境や年月で波長が合わなくなることもある。

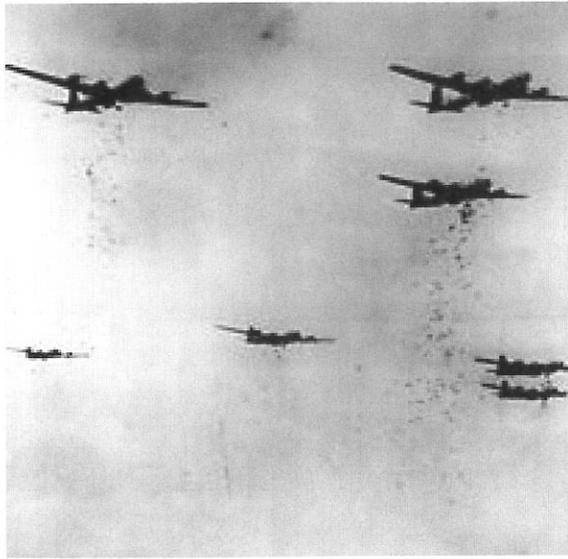
仏説阿弥陀経の中に「煩惱濁」という言葉が出てくる。世の中がけがれていく一つの特徴を説かれているのであるが、その根底には我々一人一人が本当はたいへんな人間不信になっていることを示している。

廣讚寺本堂の歴史

伊藤和美

昭和二十年一月三日、新道、六反地域に空襲。それから三月には三回の夜間空襲。

五月十四日、朝から警戒警報。続いて敵機は尾鷲上空より上陸し空襲警報の不気味なサイレンが鳴り響い



た。ラジオはさかんに敵機の進路を伝えている。伊賀上野より琵琶湖、若狭湾で東に折れて阿

下喜を通り名古屋にきた。いつもの経路である。敵機は十数機の編隊で爆音大きく空を泳いでいる。庄内川から西区に入り金鯢城を攻撃。城は灰となった。

五月十六日の夜、一編隊が稲葉地上空に現れた。廣讚寺上空で焼夷弾を落下させ。あたり一面が火の海となる。防空姿の老僧が燃え盛る本堂に飛び込み、本尊をしつかり抱えて出てきた。その後本堂は大音を立て焼け落ちた。鐘楼堂も水屋も焼失した。書院と庫裡は宿営していた兵隊が消火したので類焼をまぬがれた。寺の近隣家屋もたくさん焼失した。

八月十五日に終戦となったが廣讚寺は本堂のない寺となった。

二月行事予定

二月十四日(土) 七時半 同朋委員会・例会

(役員は七時)

十九日(木) 二時～四時 学習会

二十八日(土) 十時 二十八日講・女人講



三月行事予定

三月十四日(土) 七時 同朋委員会・総会

(役員は六時半)

十九日(木) 二時～四時 学習会

●春季彼岸永代経・蓮如講 執行

二十一日(祝) 十時 おつとめ

おとき 説教 前田健雄師

一時 おつとめ

三時 帰敬式

二十二日(日) 三時 おつとめ・法話

二十三日(月) 三時 おつとめ・法話

二十四日(火) 女人講・報恩講

十時 おつとめ・住職法話

おとき

一時 おつとめ

二十八日(土) 二十八日講・総会

十時 おつとめ・住職法話

おとき